

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202873		
法人名	水森商事		
事業所名	グループホーム せせらぎの里		
所在地	札幌市東区東苗穂7条3丁目1-5		
自己評価作成日	令和3年 11月 1日	評価結果市町村受理日	令和3年 12月 8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170202873-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍という中で病院受診以外では外出が全く出来ない状況ではありますが、施設にいるという思いをされないよう、入居者様がホームの中で自由に過ごし想いを汲み取るケアを心掛けており、意思の抽出が困難な方には苦痛を感じることがないように状況に合わせたケアを行っています。ホールには大きな窓があり、そこから見える景色やユニット内の装飾を時期ごとに変えることで季節を感じて頂けるよう心掛けています。また、ご家族様の面会もお断りしている状態でしたが毎月入居者様それぞれの近況を報告する「せせらぎ通信」を作成しご家族様にも安心して頂けるよう努めています。外部との触れ合いは現在出来ませんが職員が密に関わることで笑顔で過ごすことが出来るホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームせせらぎの里」は開設16年目を迎える1ユニットの事業所で鉄筋コンクリート造建物の3階に位置し、ドラッグストアなどの商業施設が近く利便の良い立地である。2階に系列法人のグループホームがあり避難訓練や研修等で連携し、建物1階の保育園や、小学校、児童館、町内会との交流も協力関係の元に育まれている。現在は感染症対策で相互交流は難しいが園児の手作り品が届けられるなど、関係者間で可能な部分を見出し交流している。家族面会が再開され、利用者個別のせせらぎ通信は写真やエピソードを交え毎月の発行を継続している。医療面では協力医療機関による往診、訪問看護や口腔衛生管理体制などを整えている。今年、家族の願いにより終末期支援に尽力し、来道できない遠方の家族の代わりに最期の見送りに管理者が立ち会っている。施設や精神科病院を経て落ち着かない状況で入居した利用者では、医療との適切な連携と職員が見当識に配慮する声かけをし続け、場所間違いや他者とのトラブルが減り安心して過ごせるようになった事例がある。また、週2回柔道整復師の治療やリハビリで足の力の衰えも見られず維持に繋がっている利用者もいる。本人の困っている事、望んでいる事、状態像をアセスメントし、どのような支援が必要かを見極める支援の実践が窺える。職員は利用者の気持ちや願いを汲み取り、地域と繋がりがながら管理者と職員の良好なチームワークで利用者の安心できる環境を築いている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、ケア理念をユニット入り口に掲示している。	グループ理念・法人理念・ケア理念を標榜し、事業所内の要所に掲示している。5項目のケア理念は職員の支援における拠り所として、また、日々のサービス提供場面を確認しやすい文言である。新人職員へは管理者が理念の説明を行っている。	理念を関係者や家族へ周知する取り組みにより更に全体での共有となり、運営推進会議の機会等に確認し合う事も期待できる。事業所に沿う形で検討し関係者や家族への理念の周知や発信に期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以前は1階の保育園や札苗小のミニ児童が定期的に来訪したり、行事ではボランティアの来訪していたが現在は交流はない。	近隣商業施設への職員と一緒に買い物や例年の保育園・小学校・児童館、ボランティアとの直接的な交流事業は制限中であるが、敬老の日に保育園児手作りの作品のプレゼントが届けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催していたが現在集まって行っていない。近況報告やその季節に応じた感染症などの議題を会議議事録で構成メンバーに配布している。	参集での会議開催は制限により行われていないが、2か月ごとに事業所で議題と現況について話し合い、議事録を全家族と構成メンバーに送付している。毎回ではないものの町内会長から事前に意見を求める機会を設けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請等がある際は出来る限り市役所や区役所の窓口へ行き手続きを行っている。また、現在生活保護の方はいないが、いた際は様子を電話で話すなど情報の共有を行っていた。	市より抗原定量検査実施の協力があり感染予防対策に資している。行政関連の対応や手続きは法人総務担当者や管理者が担当窓口に出向いたりメールや電話等で情報交換し連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会でマニュアルを作成している。職員はいつでも読むことが出来るよう、そのマニュアルをスタッフルームに置いている。	身体拘束防止(権利擁護)委員会の設置要綱を定めている。委員会構成メンバーの幅が広く全員参集の運営は制限中である。2か月ごとに推進会議の事業所内メンバーでこれらに係る現況を確認している。職員間では毎月のカンファレンスでこれらに係る支援のあり方を確認し学び合う機会が持たれている。感染対策上の制限下において、これらの取り組みについての書類整備を課題としており改善する意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で虐待についてのマニュアルも作成しており、職員はいつでも読むことが出来るよう上記同様スタッフルームに置いている。		

グループホーム せせらぎの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議が行えていないため現在は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に時間を設けて説明を行っている。その際は文面の説明だけでなく、具体的な例も挙げながら説明し納得して頂けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回の「せせらぎ通信」で近況報告を行っている。面会はコロナ禍のため出来ていないが、9月末より条件付きで面会可能とした。面会時の家族様との会話の中から要望を汲み取るようにしている。	家族面会が再開され、家族の本人に向けた言葉の内容からも願いや要望を汲み取り支援に反映させるよう努めている。毎月のせせらぎ通信は1人ひとり個別で発行し写真や状況報告、担当職員からのメッセージを盛り込んでいる。利用者からの要望にも適宜対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の申し送りや業務等の会話、また月1回行うミーティングで出来る限り意見を聞き反映させるよう努めている。	法人代表者は週1度のZOOM朝礼を実施し、メッセージを配信している。管理者は業務の見直しや支援のあり方を職員の意見や情報を取り入れ一緒に調整している。シフト面での就労の配慮や希望休を受け入れ働きやすい環境に努めている。	職員との日常的コミュニケーションが良好で、取り立てての個別的面談は10年以上実施されていない状況にある。業務中にある時間は時間の制約もあり職員が伝えきれない内容も想定される事から、職員との個別面談の機会確保に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を行うことはないが各職員との会話や、管理者を通し勤務状況等の把握をしてきている。評価表のようなものはあるのか不明である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は法人内研修は書面で作成し配布を行っている。外部の研修への参加はなく、ネット環境のない職員がほとんどのためオンラインでの研修も行えていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議も開催できていないため交流する機会はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来る限りの情報収集(過去の施設や病院、家族様など)を行っている。入居者様がスムーズにホームでの生活をスタート出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時にご家族様に情報収集シートをお渡しし、記入して頂いている。また、面会時に近況報告を行い、要望などもお聞きしながら話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の見学時から希望や要望を聞き、出来ないことは明確に伝えつつ、出来る限り想いに沿えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の洗濯物を畳んだり居室の掃除を一緒に行ったりし、楽しみながら生きがいを持って過ごせる環境作りを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告をしたり、月1回のせせらぎ通信で日々の生活を把握して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は家族様以外はないが、必要時に関係が途切れることがないように体制を整えている。	面会制限以前は、家族の訪問は元よりや利用者の友人が訪れることもあった。現在は対策を講じつつ2階事務室にて家族面会を可能とし大切な家族との交流が再開された。家族へ電話をしたい希望にも適宜対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの性格や相性を考慮し、入居者様同士が自然に過ごせるようホールでの座席など環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後であっても対応出来る体制は整えているがその様な相談などは今のところない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から入居者様の意向の把握に努めている。意向の抽出が困難な場合はご家族様から意向を伺い本人本位になるよう努めている。	本人がどうしたいのかなどの気持ちを大切にし本人に向き合い、思いの把握に努めている。家族から以前好きであった事柄の情報も得て本人本位のニーズを検討している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様から生活歴などを伺ったり、以前の病院や施設からも情報をお聞きし、出来る限り把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に情報ノートを作り有する力や趣味嗜好の把握に努めている。連絡ファイルを使用したり、業務日誌や生活記録に記入し、申し送り時にも職員間で話し合い情報共有に努めている。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族様からの意向を基に、担当職員が月に1回のモニタリング、3ヶ月に1回目標評価しサービス計画作成者と相談しながら作成している。	モニタリングは担当職員が軸となり、プラン以外にも本人が望んでいる事・困っている事はないか、そのためには今後どのような支援が必要か等の意見集約も行い実施している。計画作成時は家族や、難しいと諦めずに本人にも意向を確認し作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を生活記録に細かく記入し、職員全員が情報共有をした上でカンファレンス等で意見を出し合い行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人との会話や家族様からニーズを伺い、職員全員が情報共有しながら取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため外出もなく行っていない。	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々のかかりつけ医があり、継続して受けることを希望する場合は継続が可能なように体制を整えている。当ホームの主治医は2週に1回往診に来ており、歯科医や柔道整復師の往診もある。	全利用者が協力医療機関の2週に1度の往診を受けている。歯科医・歯科衛生士や柔道整復師による訪問診療の体制を整えている。専門医への受診は家族対応としている。週1度、看護師による健康管理支援が行われている。

グループホーム せせらぎの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時に相談や情報提供を行いアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は病院の看護師やSW、ご家族様と情報の共有を図っている。また、退院後の対応についても詳しく相談しスムーズに受け入れすることが出来るよう体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応指針や看取りを行っていることを入居契約時に説明している。重度化した場合、主治医、看護師、家族様、管理者と担当者会議を開催し、何をどこまで行うか対応を決めている。	利用契約時に重度化した場合の対応指針・看取りに関する指針を説明している。医師の所見や判断に基づき関係者間で話し合い今後の対応方針を定めている。今年、家族の希望により終末期支援に尽力し、家族の事情もあり最期の見送りを管理者が代行し立ち会った。10月に看取りを通じて学んだ事の研修を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故時のマニュアルを作成しており、いつでも見ることが出来るようにしている。しかし救命救急の講習を受けていない職員が増えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害を想定した避難訓練を年3回行っていたがコロナ禍のため口頭での説明しか行っていなかった。10月に久しぶりに全体での訓練を行った。	今年10月に火災・夜間想定の下、通報・避難誘導・防火扉の閉鎖を含めた実践的な避難訓練を実施した。自然災害における合同訓練や消防署の協力を得た1階保育園との合同訓練、地域住民参加については時節柄見送りとなった。災害に備えた備蓄品を確保している。	階下搬送訓練が過去に取り組まれている。新人職員を優先した日程を確保し当訓練も含め実施する意向であるのでその実現に期待すると共に、令和6年4月から義務化となる自然災害発生時における業務継続計画(BCP)の策定に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の性格を考慮し不快な思いをしないよう一人一人に応じた対応を心掛けている。	カンファレンス開催の際に接遇に関する事項を確認している。日々の業務の中で言葉かけなどについて都度管理者が中心となり指導することもある。	適切な言葉の内容や語調等について事業所全体で理解を深め、更なるサービス向上に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者様の思いや希望を聞けるような声かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など決まった時間での声かけは行いが、無理強いせずその方のペースを大切に、職員の都合を押し付けられないよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が自身で選択され衣類を着ている、混乱がみられたりと、必要時には声かけを行っている。困難な方には季節や気候に合わせた洋服を選んでいる。		

グループホーム せせらぎの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月のメニューが決められており、食材は配達をしてくれている。入居者様は出来る範囲で下膳などの片付けなど行っている。	食材業者作成の献立を利用しており、みそ汁作りや盛り付けなど利用者も一緒に行っている。ホットケーキなどのおやつ作りや、行事の際のオードブル、寿司などの出前も楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は普通の一人一人の召し上がる量に合わせて提供を行っている。飲水量は1日あたり1000～1400ccを目標に水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、自身で行うかたには声かけをし口腔ケアを促している。口腔内に問題があれば、往診の歯科医に相談し必要であれば治療をして頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方には2時間を目安に声かけや誘導を行っている。また、個々の排泄パターンを出来る限り把握出来るよう努めている。	生活記録を基に健康管理表にて排泄状況を記録している。利用者一人ひとりの状態に合わせ、適切な排泄用品を使用することで排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の対応表を主治医が作成しそれを基に対応しているが、他の対応が必要な方には医師や看護師に相談しながら個別に対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回のペースで入浴を行っている。朝のうちに声かけをし、気分がのらないときは別の方にし対応している。	一人当たり週2回、午前から午後にかけて入浴を行っている。利用者の希望に沿った時間帯や入浴日の変更、同性介助にも対応している。好みのシャンプー等を利用している利用者もいる。その日の状態に合わせてシャワー浴の場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に昼寝の時間を設けている。それ以外の時間でも一人一人の状態をみながら休んで頂いたり声かけを行うなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフルームに入居者様全員の薬情を置いており、すぐに確認が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自身の洗濯物を畳んだり、好きな本を提供したり、誕生日には誕生会を行い、クリスマス会などの季節ごとの行事ではレクリエーションも行っている。		

グループホーム せせらぎの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出は全く出来なかった。	感染症流行前は事業所近隣のドラッグストアでの買い物や公園への散歩などの外出を支援していた。利用者家族と墓参りなどに出かける利用者もいた。感染症の流行状況を見て今後は可能な限り外気に触れる機会を設けたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所で行っている。コロナ以前はスタッフと共に隣の薬局へ行くこともあったが、現在は入居者様から希望があった際は職員が代行し購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る体制ではあるが、現在電話や手紙を希望される方はいない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとに担当を決め、季節に合わせて掲示物や飾り付けを変更し、居心地が良く季節を感じて頂ける空間作りを心掛けている。	回廊式の造りになっており、対面式のキッチンに面したりリビングは大きな窓から見える木々から四季を感じることができ、陽射しが差し込み明るい空間となっている。壁には季節の装飾が施され家庭的な空間となっており、今年度からエアコンを設置し、より利用者が安心して過ごすことのできる共用空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれる場所や気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では独りになれる場所を確保することが困難である。出来る限り快適に過ごせるよう座席を考えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族様へ馴染みの物を持参することが可能であり、重要であることを伝えている。居心地良く過ごせるよう支援している。	洗面台とクローゼット、ベッドが備え付けられている。入居前に住んでいた自宅で使用していた使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込み、以前と変わらない環境が作られている利用者もおり、一人ひとりに合った家庭的な居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所など、廊下につながる言葉で掲げ出来る限り自立した生活が送れるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームせせらぎの里

作成日：令和 3年 12月 6日

市町村受理日：令和 3年 12月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念を関係者や家族へ周知する取り組みにより更に全体での共有となり、運営推進会議の機会等に確認し合う事も期待できる。事業所に沿う形で検討し関係者や家族への理念の周知や発信に期待したい。	職員だけではなく運営推進会議の構成メンバーや家族様とも理念の共有を行うことができる。	入居時の契約書に記載はあったが口頭での説明は行っていなかったため、今後は入居時の説明で家族様へも理念を伝えていく。	随時
2	36	適切な言葉の内容や語調等について事業所全体で理解を深め、更なるサービス向上に期待したい。	入居者様だけではなく職員間など他者が聞いて不快にならない言葉使いを身につける。	月1回行っているミーティングでの話し合いや資料の配布、勉強会のテーマとして取り上げ周知していく。	随時
3	11	職員との日常的コミュニケーションが良好で、取り立ての個別的面談は10年以上実施されていない状況にある。業務中にあっては時間の制約もあり職員が伝えきれない内容も想定される事から、職員との個別面談の機会確保に期待したい。	個別面談を実施する。	月1回行っているミーティングの中で職員の思いや要望を聞き取っていく。また、時期をみて年1回でも管理者との個別面談を実施する。	令和4年度
4	35	階下搬送訓練が過去に取り組まれている。新人職員を優先した日程を確保し当訓練も含め実施する意向であるのでその実現に期待すると共に、令和6年4月から義務化となる自然災害発生時における業務継続計画(BCP)の策定に期待したい。	コロナの状況を見ながらだが、全職員が避難の流れを把握できるよう訓練を実施する。	特に夜勤に入っている職員が訓練に参加出来るよう避難訓練開催月はシフト作成時に考慮する。実際に行ってみて注意したほうが良い点など他職員にも伝えていく。また、BCPIはすでに策定済であったが管理者が失念しておりました。	半年以内
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。